

学力向上アクションプラン

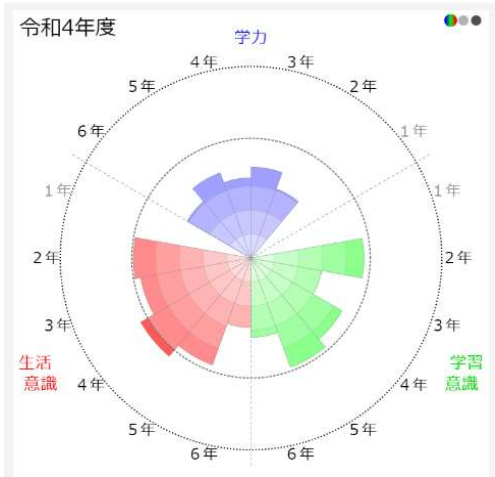
重点取組分野	具体的取組
授業改善	①朝のスキルタイムや短時間授業を中心に、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習に取り組むとともに、言語活動のヒントになる掲示物を作成、掲示し、「話す・聞く」を意識した環境づくりを行います。話し合う活動を意図的に設定するとともに、話し合いの中で、自分の考えが「どのように変わったか」「どのように学んだか」を振り返る機会を大切に、自分の考えを深めたり広げたりする力を育みます。②見通しと振り返りを大切に学習を展開し、子どもの「わかる・できる」思いを大切にするとともに、粘り強く学習に取り組む姿勢を育みます。③ICT機器を学習の中で積極的に活用し、子どもの学びを高めます。
担当	教育課程・評価

学力向上に関わる本校の状況

本校は、全体的には平均を下回るような状況にあります。国語では、高学年になるにつれ、漢字の活用や適切に言葉を使用する場面において、学習の低下の傾向が見られます。算数においては、どの学年でも、場面を適切に式に表したり数量を比較したりすることが難しい傾向が見られます。

全体的にみて、実際に体を動かして学習することが好きだったり、人とのコミュニケーションを楽しんだりする児童が多く、また、少しずつですが、粘り強く考える力が付き、友達と自分の意見を比較しながら考えたり尊重したりする意識が高まってきています。

今後は、日常生活と学習内容のつながりを意識できるように、授業改善に取り組み、学ぶ楽しさを感じられるようにすることで、それぞれの教科の必要性を感じたり取り組むへの意識を高めたりできるようにし、学力向上に結び付けていくことを目指します。



今年度の目標

基礎的・基本的事項を確実に身に付けることを目指し、体験的な活動やICTを積極的に取り入れ、より身近で生活に根差した学習展開を図ります。そして「分かる・できる」を実感させ、粘り強く学習課題に取り組めるように努めます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>個々の学力の達成度の把握をし、各ブロックごとの具体的な取り組みを考えるとともに、朝学習の有効活用等で、学習の基礎的・基本的事項を確実に身に付けることの実現に向けて取り組んでいきます。</p> <p>○低学年: 単元・毎時間の狙いを明確にし、分かりやすい授業を展開することで、学習意欲を高められるようにします。</p> <p>○中学年: ①学習の狙いを明確にし、課題解決への見通しをもてるように支援を工夫することで、最後まで粘り強く取り組めるようにします。②毎日の宿題を通して、既習事項の復習を行い、基礎を養います。同様に日記等で自分の考えを表現する力を育てていきます。</p> <p>○高学年: ①学習内容の基礎的・基本的事項を身に付けるとともに、既習内容をもとにして問題解決ができるような学習活動を設定します。②目的意識をもって学習に取り組む、日常生活と結び付けて考えたり、考えを伝えたりすることができるような授業展開を図ります。</p> <p>○個別支援学級: 一人ひとりが自分に合った課題を解決できるようスモールステップを大切に個に合った支援をチームで考え行います。</p>
下半期	<p>上半期の礎をもとに変容を見取り、目標とする子どもの姿を今一度認識し、次年度に向けてのさらなる学力向上を目指します。</p> <p>○低学年: 生活科の学習を中心に、対象と触れ合ったり関わったりする中で、自分の思いや願いをふくらませ、課題を見つけたり解決するための方法を考えたりする活動を通して、楽しく課題解決していく力を育みます。</p> <p>○中学年: これまでの学習内容や学習体験をもとに、自分の課題解決のための工夫や試行錯誤をするとともに、その時間を大切にすることで、知識と知識がつながっていく達成感を味わえる学習活動を展開します。</p> <p>○高学年: ①自分と友達の考えの相違点から新たな考えを見出したり、試行錯誤しながら課題解決を行ったりして、自分の考えを深められるような授業展開を行います。②できるようになったことや今後の課題を自覚するとともに、次時への見通しをもって学習活動に取り組めるよう、振り返りを大切にしていきます。</p> <p>○個別支援学級: より多くの体験を通して学ぶ機会を増やし、学びと生活とを関連付けられるような支援に努めます。</p>